

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2024No.193】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：J.S.バッハ.

曲名：トッカータとフーガ ニ短調 BWV565 他

演奏：富田一樹 (オルガン)

発売：富田一樹レコーディングプロジェクト

No. : KKTK-1001

概要：

地元のホールで開催された[富田一樹パイプオルガン・レクチャーコンサート](#)で求めてきた CD です。



【演奏】 富田一樹 (オルガン)

【収録】

J.S.バッハ 至高のオルガン芸術 ～魂のメッセージ～

1. トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
2. おお愛する魂よ、汝を飾れ BWV654
3. ペダル練習曲 ト短調 BWV598 (断片) ※邦人初 CD 化
4. フーガ ト短調 BWV578 「小フーガ」
5. 前奏曲とフーガ ハ長調 BWV547
6. アリア BWV1068-2 「G 線上のアリア」
7. 目覚めよと呼ぶ声あり BWV645

8. 最愛なるイエス、我らここに集いて BWV731

9. パッサカリア ハ短調 BWV582

【録音】

2020年7月9-10日

府中の森芸術劇場 ウィーンホール

【解説】

ライプツィヒのバッハ国際コンクール・オルガン部門で日本人初の第一位を受賞した気鋭のオルガン奏者富田一樹による堂々たるバッハ・アルバム！

2016年、27歳の若さでライプツィヒのバッハ国際コンクール・オルガン部門で日本人初の第1位、および聴衆賞に輝いた富田一樹のオール・バッハ・アルバム。今まで一般流通のCDがなかった富田、今作が実質的にデビュー・アルバムと言えるリリースです。自身の最重要レパートリーであるJ.S.バッハの音楽を、惜しげもなく並べて真っ向からそれに挑んだ、まさに彼らしいプログラム。前衛的な書法が情熱的に表現される『トッカータとフーガ ニ短調』に始まり、『小フーガ ト短調』、『G線上のアリア（富田自身による編曲）』といった有名曲や美しいコラール前奏曲などを挟み、堂々たる重厚巨大な『パッサカリア ハ短調』で締めくくる、聴きごたえたっぷりの一枚です。『前奏曲とフーガ ハ長調』『パッサカリア ハ短調』はバッハ国際コンクールでも演奏した曲目。また『ペダル練習曲 ト短調』は意外と録音が少なく邦人ではこれが初録音となります。

使用された府中の森芸術劇場 ウィーンホールのパイプオルガンは、ヒンリッヒ・オットー・パーシェン社製（ドイツ、キール）。3段鍵盤ペダル付き、実働ストップ46、パイプ総本数3,636本。ブックレットには全曲のレジストレーションも記載されています。名技師・常盤清氏によるセッション録音で音質面もすばらしく、富田一樹のオルガン芸術の神髄が収められた注目のアルバムと言えます。

「J.S.バッハはパイプオルガンを通じ、私たちに人生における重要な言葉を伝えてくれます。それは、ある時は「宇宙と真理」であり、ある時は「希望と安らぎ」であり、私たちの生活を豊かにするのです。音楽の父バッハが紡ぎ出した数々の旋律とハーモニー、この奇跡を是非体験して頂ければ幸いです。」（富田一樹）

再生はEMT981で行いました。

収録に使用された、府中の森芸術劇場ウィーンホールのオルガンは、地元のホールのオルガンの2段鍵盤ペダル付き、ストップ数24、パイプ本数1468本に比べてスケールが大きいものです。それだけに迫力があり、ホールの音響特性も良好なようで、ペダル領域の音も豊かで、音質も素晴らしいものです。

富田一樹の演奏は、地元のホールで何度も聴いていますが、演奏技量は国際的にも認められており、このCDからも伺いしれます。

収録曲は目覚めよと呼ぶ声ありBWV645など、お馴染みのものが多く、親しみが持て

ます。

「G線上のアリア」はオルガン曲への編曲で、通奏低音をペダルで表現するようにアレンジされています。

フーガ ト短調 BWV578 「小フーガ」は、先日のコンサートで聴いてきたばかりです。パッサカリア ハ短調 BWV582 は、壮大な大曲で、いかにもバッハのオルガン曲を聴いているという印象です。

スピーカーアキュライザーの位置の変更やケーブルチューナーの効果で、オルガン曲のスケールの大きい曲も破綻を見せずに表現されています。

以上